

## 第21回城東地区医療連携フォーラムを終えて

救急医療科

教授 磯谷 栄二

平成25年2月9日、災害医療をテーマに、第21回城東地区医療連携フォーラムを主催させていただきました。東京医科歯科大学救急災害医学分野の大友教授には、「首都直下型地震に備える病院の災害対策」と題して特別講演を賜りました。「災害医療」をテーマとしたパネルディスカッションでは、荒川区・足立区・北区・葛飾区の各医師会から、防災担当理事の方々にパネリストとしてご出席いただきました。第6消防本部救急担当係長と当院事務長を交えて意見交換を行なっていただきました。皆様には活発なご討論を展開していただき、予定された時間を大幅に超過する結果となりました。荒川区・足立区・葛飾区の行政に携わる方々にもご参加いただき、災害医療にとどまらず、地域の防災体制にも議論が及び、きわめて実りの多い会になったことを改めて感謝いたします。会終了後の情報交換会の場においても、白熱したご議論がそこかしこで続いていたことが印象的でした。

本フォーラムの本来の目的は、城東地区の医療連

携を確固たるものとするににあります。平時の良好な医療連携こそが、有時の迅速な災害医療体制の発動の礎であります。城東地区の医療連携をさらに発展させることで、さらに一層強固な災害体制作りを目指していきたく願っております。

城東地区各医師会の皆様、行政を担当されている皆様、消防隊員・救急隊員の皆様、城東地区の災害医療体制の構築に、今後とも尚一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。



平成25年2月9日 ホテルラングウッドにて

## 東京DMATカー配備について

防災危機対策室

東京DMAT〔(東京Disaster Medical Assistance Team) 大震災等の自然災害や、大規模交通事故等の災害現場で救命処置等を行うための専門知識等を習得した医師や看護師等で編成される災害医療派遣チーム〕の活動を強化するために、平成25年3月28日に東京都福祉保健局より、「災害時医療支援車(東京DMATカー)」が東京女子医科大学東医療センターに配備されました。

東京DMATカーは、東日本大震災の教訓を踏まえ、首都直下地震等の大規模災害時に、東京DMATが長時間にわたって現場活動ができるよう、東京都が全国に先駆けて導入した車両です。東京都内の25病院ある、「東京DMAT指定病院」に配備されています。大出力のエンジンや四輪駆動などによって機動力が強化されると共に、自己完結型の活動も

できるように野管用資器材等も完備しています。また、無線機や衛星電話を装備するなど、通信環境も強化されており、災害現場での情報収集拠点の一つになることも期待されています。

東京女子医科大学東医療センターの東京DMAT隊員数は、4月1日現在で、35名(医師8名、看護師21名、救急救命士2名、事務4名)となっています。



## 地域連携室からのお知らせ

「城東地区医療連携フォーラム開催のご案内」

日時：第22回 平成25年7月13日(土) 午後3時より(予定) 場所：ホテルラングウッド  
第23回 平成26年2月 1日(土) 午後3時より(予定) 東京都荒川区東日暮里5-50-5 電話 03-3803-1234

お問い合わせ先：地域連携室(内線6151) 又は業務管理課(内線4433)  
是非、ご参加いただけます様ご案内いたします。

# メディカルネットワーク

発行 東京女子医科大学東医療センター 〒116-8567 東京都荒川区西尾久2-1-10  
電話03-3810-1111 FAX03-3894-0282 <http://www.twmu.ac.jp/DNH/index.html>

2013

No.17

May

## 病院長就任挨拶



放射線科

教授 上野 恵子

このたび、大塚邦明病院長の後任として、平成25年4月1日付で東京女子医科大学東医療センター病院長を拝命いたしました。

開設以来、地域中核病院という側面と大学附属病院として高度医療を担う総合病院という、二つの機能を果たしてまいりました。平成10年に救命救急センターを設立、17年には東京都東北部の災害拠点病院に指定され、19年には外来部門のサテライト的位置づけとしての日暮里クリニックを擁立するまでに至りました。これはひとえに、患者さんをはじめ地域医療機関の先生方にご協力頂いた賜物であると感謝しております。

このように順調な発展をとげてきた当院ではありますが、建物の老朽化や複雑な導線による患者さんの利便性の低下、電子化の遅れ等、解決すべき問題を抱えております。これらを一挙に解決することは困難ではあります。診療費自動精算機の導入、院内喫茶コーナーの設営等、少しずつ改善を図ってゆく所存です。

今後においては、当院の長所を生かしながら、さらなる改善による発展を目指して前進していきたいと考えております。創立当初から期待される地域医療の一端を担うこと、また、大学病院の持つ高度な医療の質を保ちつつ、地域との密接な関係を持つことは大きな使命であります。

大学の理念である“至誠と愛”を胸に職員と力を合わせ、“チーム東医療”を合言葉に、全力で邁進する所存でございます。今後とも皆様からのさらなるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 副院長就任挨拶



医療安全対策部門担当

心臓血管外科

教授 中野 清治

東医療センターは城東城北地区の急性期医療を担うとともに東京都災害拠点病院の一つでもあります。これらの機能を十分に果たすため、行政、地域医師会との強い連携のもと、それぞれの医療機関の役割分担を明確化することが重要と考えております。上野恵子新病院長のもと名実ともに地域に貢献できるよう努力いたします。



診療、管理部門担当

日暮里クリニック

教授 山口 佳壽博

このたび、東医療センターの副院長を拝命致しました。本センターの今後の目標は、教育・研究の質を維持しながら高度の地域医療を展開していくことです。このために、耐震、DPC、老朽化した施設問題に取り組みたいと考えています。上野新病院長の基本哲学である“チーム東医療”を職員全体で共有し、本センターの医療資源の有効活用に努力する所存です。



診療支援・連携、臨床研修部門担当

小児科

教授 杉原 茂孝

このたび、東医療センターの臨床研修部門、および診療支援連携部門担当の副院長を拝命いたしました。昨年1年間、地域医療連携を中心に担当させていただきましたので、今後2年間は、昨年とは異なる業務を担当させていただきます。皆様方のご指導、ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



看護部門担当

看護部

部長 松村 幸美

区東北部の住民の方々にとって医療・福祉のニーズはとて高いと認識しております。2025年問題を見据え、地域医療機関の皆様と共に看看連携を深め、患者さまが安心して医療が受けられ、生活ができるよう支援することが課題です。どうぞご指導、ご協力よろしくお願い申し上げます。

## 部長就任挨拶



内科

教授 佐倉 宏

平成25年4月1日に大塚邦明教授の後任として、東京女子医科大学東医療センター内科部長を拝命いたしました。当科は歴代部長の優れた構想のもと、内科全領域の診療とともに、関連診療科と協力しながら救急医療から在宅医療まで、地域医療中核病院として重要な部門の診療も担っています。安全で良質な医療を提供することはもちろんですが、受診されるひとりひとりの方に対してチームワークで最善の治療を提供することにより、受診される方だけでなく地域の皆様からの信頼を高めていきたいと思っております。

また、大学病院として教育・研究も重視したいと思

います。特に、診療状況とその効果を科学的に解析して地域医療の向上を目指す研究や、超高齢化社会に対応するための老年医療の研究には、内科を挙げて取り組むたいと考えています。

内科は、常勤医約50名、非常勤医約10名、研修医約10名、コメディカルスタッフ約90名の体制で診療を行っています。医療スタッフは非常に優秀だと自負していますが、人数は十分とは言えず多くの課題も残されています。さらなる改善に向けてスタッフが一丸となって取り組んでいます。地域の皆様からの意見も反映させたいと思います。厳しい意見も歓迎しますので、是非お寄せください。

私自身、東医療センターに赴任してまだ1年余りに過ぎず至らぬ点も多いのですが、全力を挙げて職責を果たしていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 東京都大腸がん診療連携協力病院に認定



外科

准教授 吉松 和彦

当東医療センターは平成25年4月1日付けで、「東京都大腸がん診療連携協力病院（大腸がん連携協力病院）」に認定されました。東京都では、国が指定する「地域がん診療連携拠点病院」に準じ、高度な診療体制が整備されている病院として、独自に「東京都認定がん診療病院」を整備してきました。これら以外にも昨年より地域のがん診療の中核的な役割を担うものとして、肺がん、胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん、前立腺がんの6つの部位ごとに、「がん診療連携協力病院」の認定を開始しました。

東京都区東北部には、これまで上記「地域がん診療連携拠点病院」、「東京都認定がん診療病院」はなく、地域のがん患者さんや医療機関からは「一日でも早く認定を！」といった熱い期待を承ってきました。今回の認定に際し、「拠点病院」に準じた医療体制の構築が整ったことから、今後、他の部位に関しても順次認定が期待されます。

今回は「大腸がん」に関しての認定となりましたが、東医療センターでは先の6つの部位ばかりでなく、様々ながんの治療に対して集学的治療やがん患者さんのケアをしっかり行っています。がんセンターボードやセカンドオピニオンなどを通じ、皆様のがん治療にお役にたてられればと考えています。今後も地域のがん患者さんや医療機関の皆様より信頼される「がん診療病院」を目指し、努力を続けていきたいと思っております。

## 卒後臨床研修を終えて



内科

医療練士 美濃部 祥子

2年間の当院での初期臨床研修を修了し、幅広い症例が集まる当院でさらに深く勉強したいと考え、今年度内科に入局させて頂きました。心不全や肺炎といった一般的な疾患から、珍しい症例まで一度に診ることができ、それぞれの専門医の先生よりご指導いただける環境での研修は毎日本当に充実しています。これからより一層医療に貢献できるよう精一杯がんばっていきたく思います。



形成外科

医療練士 最上 真理子

平成23年から当院で初期臨床研修をさせて頂きました。2年間通して行う救急外来での診察は幅広い疾患に触れ、必修科と様々な選択科の研修では各科の一連の専門的な治療を研修する事が出来ました。自分の目指す医師像を見つけることができ、充実した2年間となりました。4月からは形成外科に入局し、また当院で研鑽を積む機会を頂けて大変光栄です。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。



## 看護部だより2

コミュニケーションを大切に  
多職種のリソースでありたい

感染管理認定看護師 中野 聖子

私は、感染管理認定看護師として、患者さん・ご家族・職員・訪問者の方々を病院感染から守るために活動し、出来るだけ経済的効果のある方法で、感染防止に関する医療の質の向上に貢献することを活動の目的として専従で活動しております。

主な活動内容は、MRSAをはじめとする耐性菌への対策、感染リンクナースや職員の感染防止教育、針刺し防止等の職業感染防止、感染対策チーム（ICT）でのラウンドなど多岐に渡ります。

また、日々、院内の状況把握だけではなく、東京都内、国内外の感染症の動向を把握し、ICTのメンバーと共にICTニュース等で院内の職員に対し情報発信を心がけています。

感染管理認定看護師は管理的な活動が主ではありますが、職員の皆さんと共に感染対策を実施していくため、コミュニケーションを大切にし、看護師だけでなく多職種に対しても近い存在のリソースでありたいと思っております。

地域の医療機関の皆様から感染対策に関するご相談をお受けすることも計画しております。詳細が決まりましたらお知らせさせていただきます。



## うちの達人！

突然の危機的状況の中で  
日々戦っています

救急看護認定看護師 赤池 麻奈美

本年度より、新宿にある東京女子医科大学病院より東医療センターの救命救急センターに参りました。2009年に救急看護認定看護師の認定を受け、救急患者の中でも最も重篤である、三次救急として搬送される患者さんとそのご家族への看護を実践しています。また、継続して集中治療を必要とする方に対し、医療チームの一員として救命技術・救急看護技術を実践しています。

東日本大震災の際には災害医療チーム（東京DMAT）の一員として宮城県気仙沼市に赴き、災害急性期に被災地で医療救護活動を行いました。その経験を基に災害看護にも力を入れて活動しています。

時と場所を選ばず突然危機的状況となる救急現場は、日々命との戦いです。患者さんとそのご家族の身体的・精神的問題に対し擁護者として寄り添い、常に身近な存在としていられるよう心がけています。よろしく願いいたします。

ストーマー外来を基盤に褥瘡・創傷も  
内外と連携しています

皮膚・排泄ケア認定看護師 石井 佳子

私は、東京女子医科大学東医療センター看護部所属の皮膚・排泄ケア認定看護師の石井佳子と申します。

皮膚・排泄ケア認定看護師（以前はWOC看護師）は、人工肛門・人工膀胱の造設や褥瘡、創傷および失禁に伴って生じる問題に対して、専門的な知識と技術を用いて質の高い看護を提供する看護師です。褥瘡予防対策ではハイリスク患者ケア加算を算定し、褥瘡管理者として活動しています。また、当院では、当院又は他施設でストーマを造設された方を対象に、毎週水曜日の午後と木曜日の午前にストーマ外来を開設し、退院後は訪問看護ステーション、転院先に情報提供し、常に連携できるようにしています。今後はストーマや褥瘡・創傷等に関して、地域の医療施設の相談窓口として活用していただけるよう体制を整えていきたいと思っております。

地域の新生児が健やかに  
成長発達していけるよう支援します

新生児集中ケア認定看護師 吉原 三恵

新生児集中ケア認定看護師の吉原三恵です。私は、現在新生児集中治療室に勤務し、早く生まれたり、病気を持って生まれた新生児や家族の看護を行っています。当センターで出生された新生児だけでなく、荒川区・足立区を主体とした地域の新生児の救命に努めるのが当新生児集中治療室の使命です。そして、すべての新生児が、健やかに成長・発達し家族や地域に帰っていけるように医師やスタッフとともに力を合わせてケアを行っています。

当新生児集中治療室は、呼吸器疾患を専門としており、全国から治療を受けるため転院してきます。そのためすべての新生児が、より良い医療や看護を受けられるよう、後輩スタッフに対して、新生児看護の知識や技術の指導とともに常に倫理を考え、質の高い看護の提供に努めています。また新生児と家族が過ごしやすい環境を作り、家族としての時間が持つことができるようにしています。